

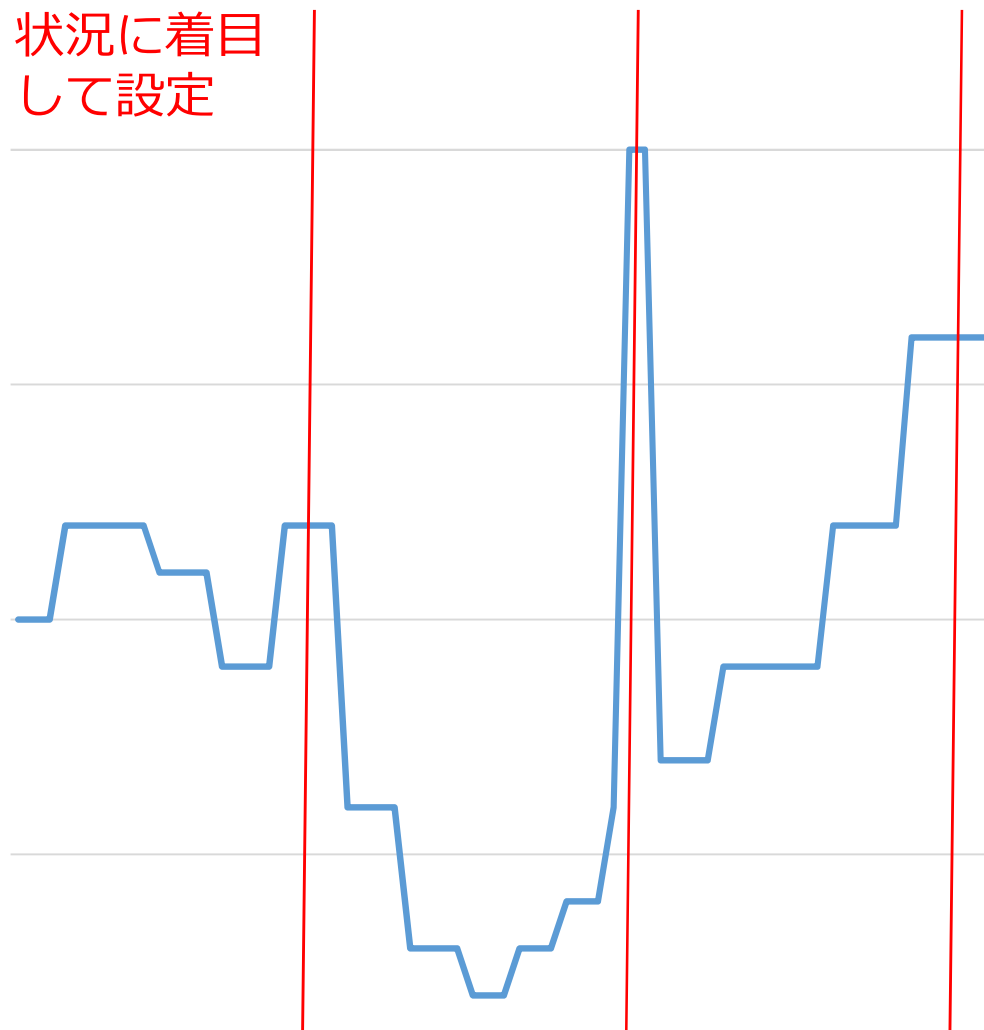
# 目標・指標の測定区分について

今回目標・指標を設定するにあたり、測定区分を設けました。  
「時点」「単年」「累計」の3種類に区分しています。

# 時点値の考え方

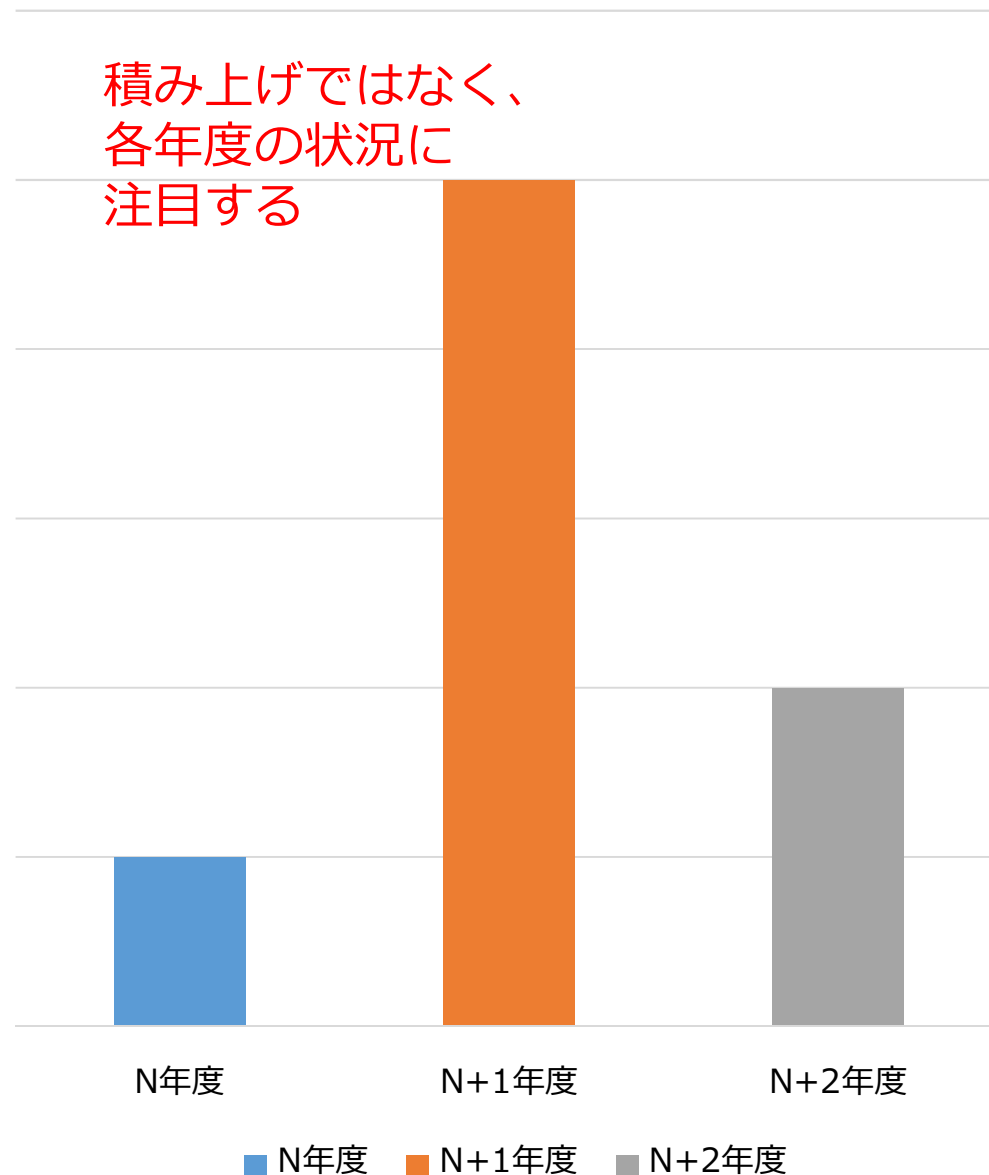
- 意味
  - ある時点における値。
- メリット
  - 直感的に理解しやすい。
  - 比較・目標管理が容易
  - 成果を示しやすい
- デメリット
  - 短期的な変動に左右される。
  - 経過や推移を把握しづらい
  - 成果の解釈に注意
- 例
  - 年度末時点人口
  - 年度末待機児童数 など

ある時点の  
状況に着目  
して設定



# 単年値の考え方

- 意味
  - ある年度・期に限定した値。
- メリット
  - 直近の取り組み効果やトレンドを把握できる。
  - 年ごとの比較が可能で、改善や悪化を可視化できる。
- デメリット
  - 長期的な蓄積や成果の大きさを示しにくい。
  - 毎年の変動が大きいと「事業効果が不安定」と見えることがある。
- 例
  - 今年度の新規移住者数
  - 今年度の相談件数



# 累計値の考え方

- 意味
  - ある時点から現在までの積み上げの値。
- メリット
  - 成果の蓄積や全体像をわかりやすく示せる。
  - 「これまでに何を成し遂げたか」を強調できる。
  - 値が減らないため、長期的な訴求や実績アピールに適する。
- デメリット
  - **増加し続けるため**、短期的な改善・変化を把握しにくい。
  - 直近の取り組み効果を評価するのに不向き。
- 例
  - 補助金の累計交付件数
  - 図書館利用者の累計人数

